【様式４の２】

受験番号兼申請番号	医・歯・技

（この上の欄には記入しないで下さい）

西暦　　年　　月　　日

症例番号	

1）医療機関; ○○○総合病院
2）カルテ番号; ○○○○○
3）年齢; (初診時) 54 歳
4）性別; 男
5）職業; 会社員
6）主訴・主症状; 睡眠中の異常呼吸・呼吸困難感、日中の眠気
7）診断; 成人の閉塞性睡眠時無呼吸症候群（重症）
　※睡眠障害国際分類第 2 版に従い診断
　※重症度は American Academy of Sleep Medicine の分類に従った。
8）既往歴; 狭心症、糖尿病、高血圧、口蓋扁桃肥大、鼻中隔彎曲症
9）家族歴; 特記事項なし
10）現病歴; 当院受診 1 年前に、妻から睡眠中の呼吸異常を指摘され、他院にて睡眠ポリグラフィ携帯用装置にて検査を行った。無呼吸・低呼吸指数（AHI) 55.7 /hr であったが、治療せずに経過していた。しかし、 睡眠中に呼吸苦を感じるようになり、このままではいけないと思い治療を考えていたことと、2 ヶ月前に心臓カテーテル検査で循環器内科病棟入院時に受診を勧められことから、○年○月当院耳鼻科を受診した。
11）心身の一般的所見（初診時）;
　身長: 164 cm、体重:73 kg、Body mass index: 27.1 kg/m^2 、血圧: 118/82 mmHg (治療中)
　心電図: 特記すべき異常なし、神経学的所見・精神医学的所見:なし
　Epworth Sleepiness Scale: 17 点、Pittsburgh Sleep Quality Index: 5 点
12）主要な臨床検査所見;
　呼吸機能検査: 正常
　鼻腔通気度: 右側鼻閉
　生化学所見: 空腹時血糖値 201 mg/dl、ヘモグロビン A1c (NGSP) 7.2 %、中性脂肪 402 mg/dl の 3 項目が高値であった。その他の項目に異常なし。
13）睡眠ポリグラフ検査（PSG)所見;
　<u>診断 PSG(○年○月○日)表 1、図 1</u>
　*AASM による睡眠と随伴イベントの判定マニュアル ver.2 に従い判定した。
　*睡眠構築; %Stage N1 64.5%、%Stage N2 26.8%、%Stage N3 0%、%Stage R 8.6%と徐波睡眠およびレム睡眠の比率が減少していた。覚醒指数は 62.3 /hr と多く認められた。覚醒反応は、無呼吸・低呼吸に伴ったものが多数をしめた。
　*睡眠時呼吸障害; AHI は 64.4 /hr であり、閉塞性無呼吸（43.6/h r)が最も多く認められた。酸素飽和度は無呼吸とともに 66%まで低下した。なお、レム睡眠や体位による悪化はみられなかった。

*心電図；上室期外収縮および心室期外収縮が各１回認められた。

*下肢筋電図；周期性四肢運動はなし。

手術（口蓋扁桃摘出術、軟口蓋形成術および鼻甲介切除術）後 PSG（○年○月○日）表 1、図 2

*睡眠構築；Sage N1 35.6%、Stage N2 51.6%と診断検査時に比べ Stage N2 が増加していた。Stage N3 0%、Stage R 2.8%と減少していたが、覚醒指数は 25.4/hr と著減していた。

*睡眠時呼吸障害； 診断検査時 AHI 64.4/hr から 16.2 /hr と減少した。低呼吸が最も多く認められた(10.8 /hr)。酸素飽和度は、診断検査時 66%からやや改善したが、76%まで低下した。無呼吸・低呼吸ともに仰臥位睡眠時に最も多く認められた。

*心電図；上室期外収縮が１回認められた。

*下肢筋電図；周期性四肢運動はなし。

14）鑑別診断；睡眠中の呼吸困難感について、呼吸機能検査において異常は認められなかった。また、狭心症の状態についても、循環器専門医の診察により特に問題はないとの報告を受けた。したがって、睡眠中の呼吸困難感は、無呼吸・低呼吸によるもと考えられた。日中の眠気については、ナルコレプシーに特徴的な情動脱力発作や入眠時レム睡眠が認められなかったため除外された。特発性過眠症についても、手術後 PSG にて AHI の低下および眠気の改善が認められているため除外できる。

15）治療方法; CPAP 治療の適用である旨を説明したが、他院にて、CPAP 使用に対し違和感が強く、治療継続できなかった経験があり、治療を希望されなかった。手術治療に関しリスクや睡眠時無呼吸症候群が完治しないこともあることを説明し了解を得て、手術リスク軽減のため○年○月○日より CPAP（オートモード、下限圧 4cmH_2O、上限圧 10cmH_2O、ランプ時間 30 分）を導入した。約３ヶ月間の観察により、睡眠中の CPAP アドヒアランスは向上した。口蓋扁桃肥大および鼻閉も認めることより、○年○月口蓋扁桃摘出術、軟口蓋形成術および鼻甲介切除術を施行した。

16）治療効果・経過予後；手術後２ヶ月の鼻腔通気度検査にて鼻腔抵抗値は両側ともほぼ正常となった。手術後５ヶ月には、ESS 9 点、PSG では AHI 16.2/hr と改善したもののなおも中等症の閉塞性睡眠時無呼吸を認めたが、ご本人の希望もあり一旦 CPAP 治療を中止し、経過観察することとなった。

＊この模範例を引用・申請した場合は不合格となる。

＊症例報告書の内容や書き方は認定事業実施に関する規約・細則に準ずること。

＊書式（フォント、文字サイズ、行間など）は読みやすく、統一が図られていること。

＊図は鮮明であること。

＊睡眠ポリグラフの図にはスケールを入れること。

【様式４の４】

（図・表は下の枠内に貼付け、各図・表に番号、タイトル、説明文をつけること）

表１．睡眠ポリグラフ検査結果

	評価項目	診断時	手術後
睡眠	総　床時間（TIB）（分）	507.5	508.5
	睡眠期間（SPT）（分）	490.0	446.0
	総睡眠時間（TST）（分）	399.0	389.5
	睡眠効率（%SPT）	81.4	87.3
	Stage R（%TST）	8.6	12.8
	Stage N1（%TST）	64.5	35.6
	Stage N2（%TST）	26.8	51.6
	Stage N3（%TST）	0	0
	覚醒反応指数（/hr）	62.3	25.4
	睡眠　時（分）	14.5	40.5
	レム睡眠　時（分）	112.5	95.0
体動	周期性四肢運動指数　（/hr）	0	0
	無呼吸・低呼吸指数　（/hr）	64.4	16.2
呼吸	仰臥位時	70.7	45.3
	側臥位時/右側臥位時	76.7/61.6	2.7/6.4
	無呼吸指数（/hr）	54.9	5.4
	閉塞性	43.6	4.5
	中　性	0.3	0.2
	合性	11.0	0.8
	低呼吸指数（/hr）	9.5	10.8
	3%酸素飽和度低下指数（/hr）	63.5	14.5
	酸素飽和度最低値（%）	66	76
	呼吸覚醒指数（/hr）	53.5	11.4
	心電図	上室期外収縮・心室期外収縮	上室期外収縮

TIB: Time in bed

SPT: Sleep period time

TST: Total sleep time

図１．診断時 PSG　睡眠経過図

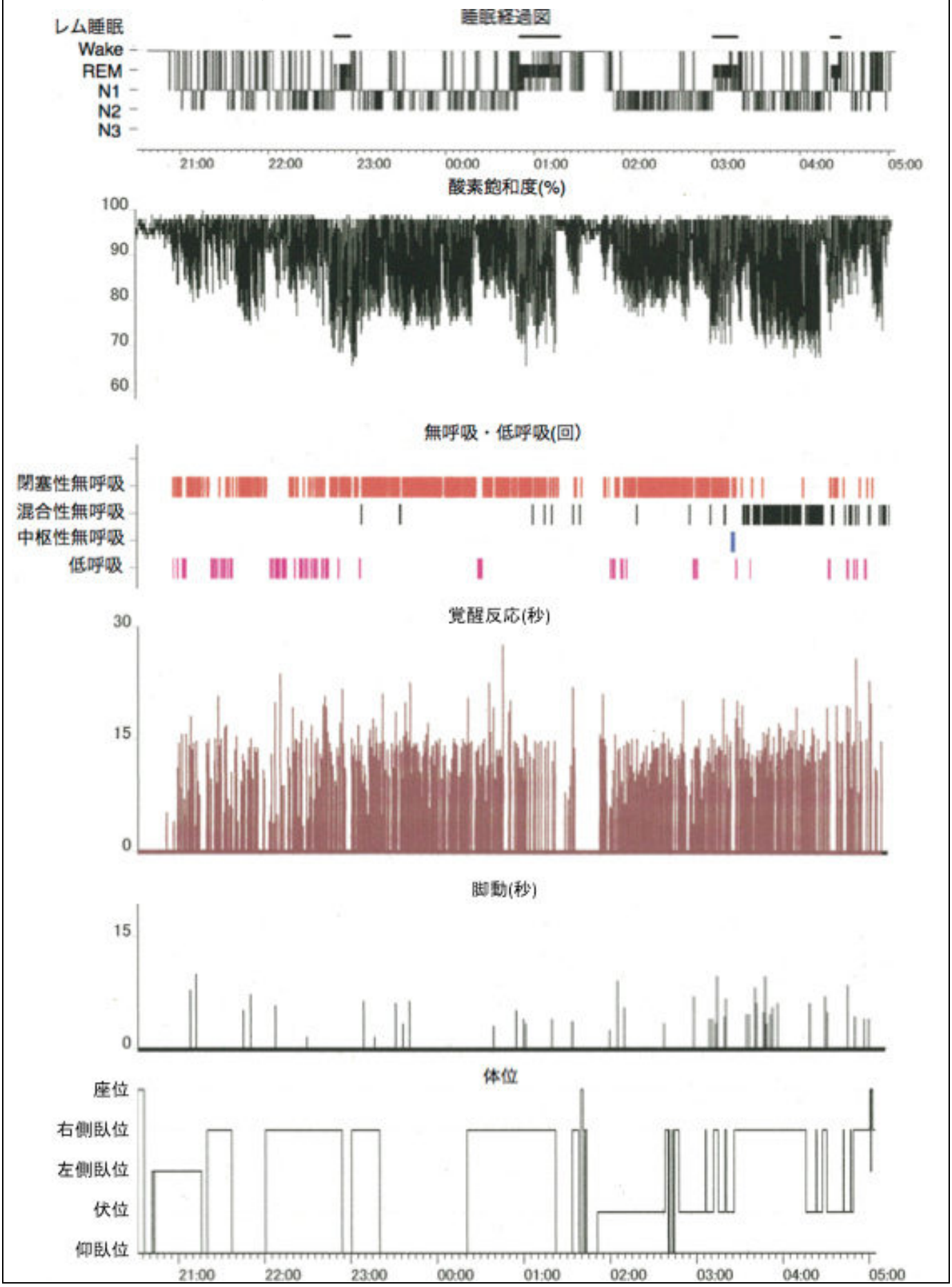
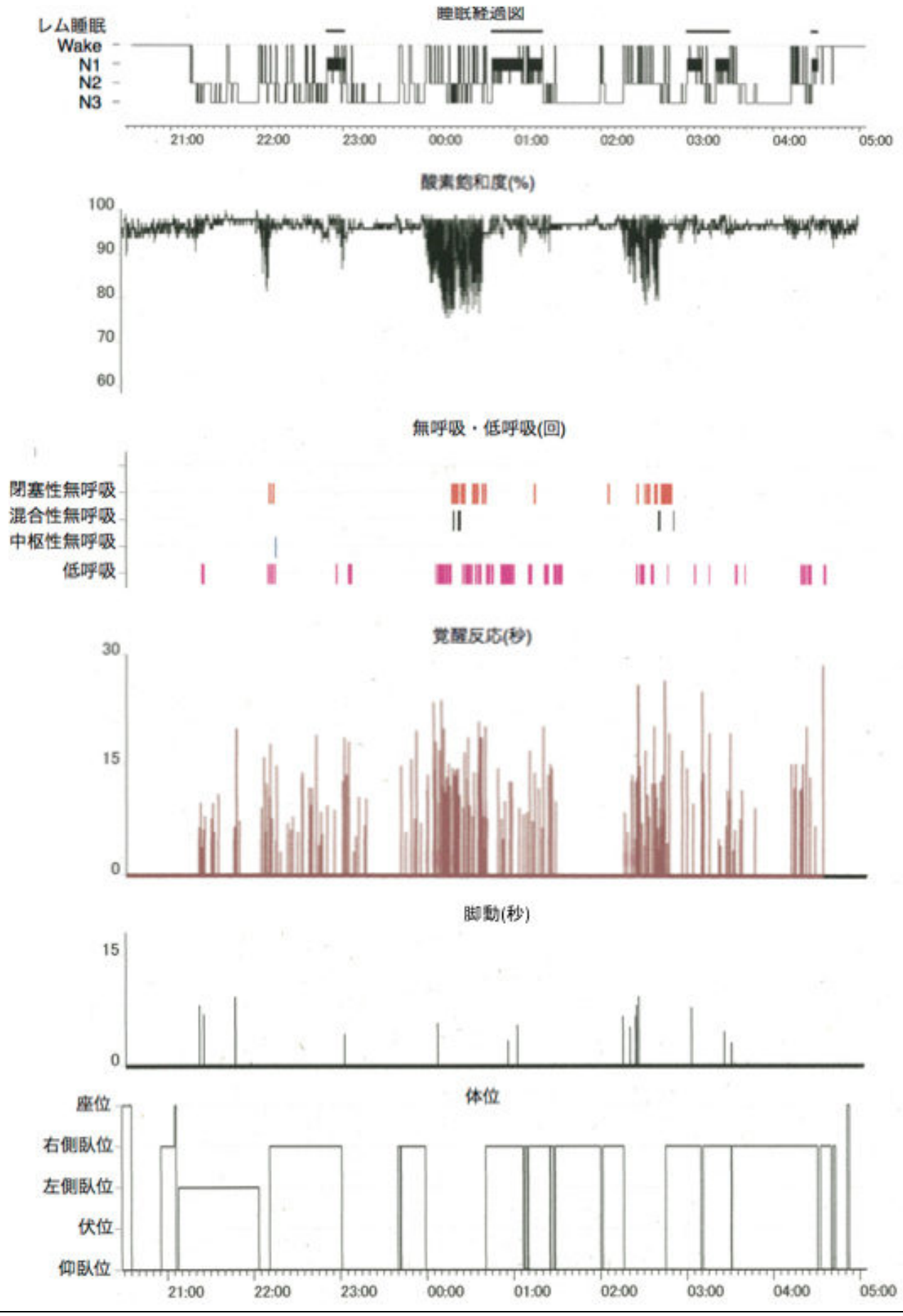
図 2. 手術後 PSG の睡眠経過図